

平成 27 年度学校評価

神奈川県立荏田高等学校

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
I 幅広い学習ニーズに対応する多様な教育課程を展開する	<p>1 『荏田アカデミア』での学習マネジメント体制の構築</p> <p>(1) 第一希望の進路実現のため、学びのツール『荏田アカデミア』を活用した学習支援体制を構築し、日常の教科活動、放課後や長期休業中の補習・講習等の充実を図る。</p> <p>(2) スポット授業、体験型授業、提案型授業などを積極的に導入し、学習への興味・関心、意欲を高め、生徒個々の特性に応じた学力の伸長を図る。</p> <p>2 体育コースの指導的人材の育成</p> <p>(1) 体育コースにおいて、①健康の維持・増進、②競技力向上、③生涯スポーツ、を基軸として専門科目の授業内容の充実を図り、将来の体育・スポーツ指導者としての資質の向上を目指す。</p> <p>(2) 体育コースにおいてスポーツマン精神を育み、その精神が学校全体に波及するよう取り組む。</p> <p>(3) 体育コースと上級学校との連携に関わる課題を分析し、大学等の関係機関との連携交流を伴った新たな協力体制を構築する。</p> <p>3 教育課程の改善・充実</p> <p>(1) 本年度からの新学習指導要領の完全実施を踏まえ、新教育課程編成の課題解決に取り組む。</p> <p>(2) 県立高校改革に向けて、新たな教育課程を編成する準備に取り組む。</p>	<p>・ASL（放課後学習支援）や長期休業中の講習・補習の講座を昨年度よりも充実できたか。</p> <p>・組織的にさまざまな授業形態を導入し生徒の意欲を高めることができたか。</p> <p>・体育コースの専門科目の授業改善に取り組めたか。</p> <p>・体育コースの取組が、一般コースの生徒に先導的な役割を果たしたか。</p> <p>・大学関係機関との新たな教育連携の構築が図れたか。</p> <p>・新教育課程編成の課題や解決の手立てが明確化されたか。</p> <p>・県立高校改革に向けて、準備を始めることができたか。</p>	<p>・生徒一人ひとりの学習状況や進路のニーズに応じた、よりきめ細かい学習支援を図るためASL（放課後学習支援）のような対応に加え、各教科・科目・担当者の創意と工夫を活かした体制づくりにも取り組んだ。特に夏季休業中の講習については昨年度よりも講座が充実し、第一志望の進路実現にもつながった。</p> <p>・生徒の学習意欲を高めるために、アクティブラーニング型の授業や外部講師を活用した体験型のスポット授業を導入することができた。生徒のニーズに対応することができた。</p> <p>・体育理論（スポーツ概論）においては、メンタルトレーニングや栄養、危険予知トレーニングなどの調べ学習を実施し、レポート作成を行うことにより、効果的なスポーツ指導の基礎的条件を学び、知識を深め、スポーツ指導者としての資質の向上を目指す人材育成を行った。</p> <p>・体育実験では、発表に向けて計画的に準備を行い、実験結果の検証へと結びつけることができた。また、その取組をとおして、科学的思考力の向上が図られた。</p> <p>・スポーツIやIIで培った専門性のある内容や取組を一般コースの生徒を含めた体育授業に還元し、先導する様子が見られた。特に運動の苦手な生徒に対し積極的に声掛けを行い、運動の楽しさを実感させるなど活き活きと充実した授業を展開することができた。</p> <p>・分野別進路説明会の企画の中で、体育系や健康福祉、人間科学などの学科がある日本体育大学・東洋大学・国士舘大学・神奈川大学・東海大学・日本工学院などの説明を聞き上級学校への理解を深める場をつくった。</p> <p>・昨年度から実施の新教育課程における科目選択について、教科や学年で課題点をあげて検討し、本校の教育理念も鑑みて、改善することができた。</p> <p>・県立高校改革に向けての組織改編を行っていたが、12月に正式に発表された県立高校改革の「体育コース」の解消という発表を受け、今年度、新たな教育課程を編成する本格的な準備に入った。</p>	<p>・日々の放課後を活用した講習・補習の充実を目指すとともに、生徒が取り組みやすいように担当グループがイニシアティブをとり、部活動や校内会議の設定調整などを行う。また、生徒一人ひとりに応じた学習支援体制の充実を図ることを目指した教職員の共通理解づくりに、より積極的に取り組む。</p> <p>・「組織的な授業改善」に資するような優れた授業実践の技術を学ぶため、情報の提供や日常的な授業公開を通して教員集団全体で共有できるようにする。</p> <p>・体育コースにおいて指導者としての人材育成のため、より専門的な知識の構築を図る授業改善に取り組む。また、体育実験の分析の視点を広げ、より精度の高い内容の検証を目指すため、実験器具の充実も図りたい。</p> <p>・学校生活における体育コースの生徒のリーダーシップの向上を図るために、体育の学習だけでなく、学校行事等においても、その企画や運営の中心となって考えさせる取組を行っていききたい。</p> <p>・専門コース特有の教科や実習などの中で大学機関との連携がより一層図られるよう検討する。特に体育系の大学機関のみならず、予備校等とも連携し、体育コースの進路開拓における取組を検討する。</p> <p>・今後に向け、具体的な大学関係機関との取組を推進していくよう、なお一層の努力が必要である。</p> <p>・新教育課程完全実施における上級学校への入試の初年度となり、その状況を現行の科目選択と照らし合わせ、生徒の進路選択に適應できるように科目選択パターンを検討していききたい。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・生徒の一人ひとりに応じて手厚い学習支援をしていただいていることを評価したい。</p> <p>・生徒たちの学力向上の指標を具体的に示し、保護者たちにもその指導体制を発信したほうが良い。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・平成30年度から入試制度が変化することに応じて生徒への支援の検討を進めていって欲しい。</p> <p>・体育コースの発表会に出席して、仮説がきちんと立てられ検証もきちんとなされている洗練された発表と年々変わってきていることを評価したい。論理的に考えて表現する力は大学でも大学以降でも必要となってくる。是非、そのような力をつける教育に引き続き取り組んで欲しい。</p> <p>・県立高校改革によって体育コースが解消されることで、荏田高校のミッションや特色が来年度どう変わっていくのかを決まった時点で早く教えて欲しい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・『荏田アカデミア』での学習マネジメント体制のうち、放課後や長期休業中の学習支援体制は、エアコンの設置などで教場の確保がしやすくなったこともあり、昨年度にも増して整ってきた。</p> <p>・日常の教科活動の充実については、「教えて考えさせる授業」を基軸にして、生徒一人ひとりのニーズに合わせた指導ができるようになった。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・ASLについては、開講講座の充実に加え、部活動を引退した3年生の対応も含め、募集時期についてもさらに生徒が受講しやすい方法を検討したい。</p> <p>・体育コースの運営に関しては保健体育課や体育センター指導研究課等との連携を強化し、教員の専門的知識に関する校内研修や体育実験授業の充実を図っていく。</p> <p>・近隣大学(日本体育大学等)との連携については、具体的内容を挙げながら、両者のメリットと果たすべき役割についての検討を始めている。</p> <p>・平成27年度の「県立高校改革」の実施計画発表に備えての校内の体制作りを行った。</p>

<p>II豊かな心と健やかな体を育成し、心ふれあう教育を推進する</p>	<p>1 基本的な生活習慣の確立及び規範意識の醸成</p> <p>(1) 日常的なあいさつ、声かけや清掃活動等を通して、社会性や公共性を育てる。</p> <p>(2) 授業を受ける心構え、ルールの遵守や頭髪・服装、遅刻指導等を通して、規則正しい学校生活と規律を重んじ、本校の生徒としての「誇りを持つ」心を育むことで責任感や愛校心を育成する。</p> <p>2 生徒支援体制の充実</p> <p>(1) 教育相談コーディネーター、スクールカウンセラー、ケース会議等、日常の生徒支援の連携を強化し、教育相談体制の充実を図る。</p> <p>(2) 登下校時の交通安全指導、巡回指導、自転車点検等の実施により、生徒の健康・安全教育の充実を図る。</p>	<p>・日常的なあいさつや声かけを心がけることで社会性や公共性を育成する体制が確立されたか。</p> <p>・日常的な指導とともに、頭髪、服装全体指導等が組織的に行われたか。</p> <p>・各学年に配置された教育相談コーディネーターによって風通しの良い教育相談体制が確立されたか。</p> <p>・自転車保険の加入の義務化やPTAと連携した自転車点検が実施できたか。</p>	<p>・頭髪・服装・遅刻の各指導は定着の様子がみられ、概ね基本的生活習慣は確立されてきた。</p> <p>・各指導を行う上で規則正しい生活の必要性を理解させ、自主的に基本的生活習慣を身につける態度を概ね養うことができた。</p> <p>・各学年の生徒支援情報をまとめ、定期的に養護教諭・スクールカウンセラー・管理職を交えて生徒支援状況の確認を行った。</p> <p>・各学年に配置されたコーディネーターによるオンザフラインミーティングなどを通して、学年の生徒支援を適宜行うことができた。</p> <p>・自転車の任意保険の加入率は、100%となっている。</p> <p>・自転車点検をPTAと連携して行い、整備不良の自転車を生徒・保護者へ伝えることができた。</p> <p>・警察とPTAとの連携で、実演型交通安全教室(スケアードストレイト式)を実施することができ、充実した安全教育ができた。</p> <p>・登校指導でPTAと協働し、あいさつ運動を実施した。</p>	<p>・制服に関して、教室に置いたままで登下校する生徒が見られるので、より一層、服装指導の徹底が必要である。</p> <p>・指導に当たり、教員のより一層の意識向上と統一を図り、指導体制の充実を図る。</p> <p>・授業中の様子を無断撮影するケースが数件あったので、再度、携帯電話及びスマートフォンの使用規制の確認を行い、授業中のマナー改善指導を徹底していきたい。</p> <p>・生徒支援に関する情報共有を踏まえ、より迅速な支援を行うために、各学年に配置されたコーディネーターがより緊密に連絡をとれる体制を組織的に構築していきたい。</p> <p>・学年の垣根を越えた支援が素早く行えるような、風通しのよい組織づくりをしていく必要がある。</p> <p>・定期的(年1回)な実演型交通安全教室(スケアードストレイト式)の実施に向けて警察・PTAとの連携を進めていきたい。</p> <p>・近隣住民からの情報提供で、自転車運転マナーについての注意を受けることがあったので、自転車運転マナー向上の指導に努めたい。</p>	<p>(保護者)(学校評議員)</p> <p>・校内で生徒に会うと、挨拶をきちんと返してくれる。また、学校全体の清掃が行き届き、また、授業でも生徒が落ち着いて受けているようだ。生徒が落ち着いて授業を受けることができる体制づくりを引き続き行っていく。</p> <p>(保護者)</p> <p>・実演型交通安全教室(スケアードストレイト式)を引き続き実施し、警察・PTAとの連携を進めて生徒に交通安全の大切さを指導していただきたい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・挨拶については、部活動のみならず日常生活にしっかりと浸透している。この取組については引き続き積極的に継続していく。</p> <p>・基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を念頭に行われてきたこれまでの指導が、実を結び始めている。今後さらに教職員の意識を統一し、足並みを揃えて指導を継続していくことが、肝要である。</p> <p>また、登下校指導や服装指導、頭髪指導は、概ね生徒に定着してきた。特に式典での服装については、生徒が自ら正すことができるようになった。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・近年、カウンセリングを希望する生徒が増えてきていることや、発達障害が疑われる生徒への対応を考えた、必要な知識や対応法などについての研修を学校独自で開催する。</p> <p>・道路交通法の改正に伴い、自転車通学生徒だけでなく登下校での交通安全指導の徹底を図る。</p> <p>・自転車の乗車マナーに対する近隣の方からのご意見もあるので、安全面も踏まえて指導の徹底を図る。</p>
<p>III主体的に学ぶ力を育成し、確かな学力の向上を図る</p>	<p>1 授業づくりの取組と組織的な授業改善の推進</p> <p>(1) 生徒一人ひとりの自ら学び自ら考える力を育てるとともに、基礎的・基本的な知識や技能の修得を図り、課題解決能力を育むための授業の工夫・改善に取り組む。</p> <p>(2) 授業見学や研究授業などを通して、授業をつくる上での課題やその解決に向けた手立ての共有化を図る。</p>	<p>・生徒による授業評価の各項目について70%以上の満足度が得られたか。</p> <p>・校内研修、公開研究授業を年間2回以上開催し、組織的な授業づくりに取り組めたか。</p> <p>・他校種(中学校や大学)との連携授業や外部の専門家を招いた学習会などを活用することができたか。</p>	<p>・どの科目も多くの項目で、「かなり当てはまる」と「ほぼ当てはまる」の合計の割合が、8割から9割と高い満足度をえられることができた。</p> <p>・教員の働きかけ(説明や発問など)に対する生徒の反応やアクティブラーニング型授業形態にポイントをおいて校内授業研修を行ったことで、生徒の学習状況や学習集団の特性に応じた授業をつくる重要性について全職員が確認できた。</p> <p>・保健体育の授業づくりの研修としてラグビーの元日本代表の平尾剛氏を講師に「身体を通した学び」というテーマを用い、生徒も交えた講演会を実施したことで、授業について生徒とともに考えを深めることができた。</p> <p>・ラグビー元日本代表の平尾剛氏を講師に招き、「身体を通した学び」をテーマに全校生徒を対象に講演会を行い、学びを深めた。</p>	<p>・授業改善の成果が良い方向に進んでいるので、今後も各教科内で指導方法の研修をしていくことで、「かなり当てはまる」の割合が更に高まるような取組をしていきたい。</p> <p>・授業改善について一層組織的な研究体制を構築していきたい。具体的には、研究授業について共通テーマを設定し、それを踏まえた授業を一定期間展開するなど、優れた教育実践を教員間で共有できるような仕組みづくりに取り組んでいきたい。</p> <p>・1年生の「総合的な学習の時間」を活用した早稲田大学との連携授業を本校の特色ある学びの一つとすることを踏まえ、連携での課題をあげ改善をしながら内容の深化と充実を図る。</p> <p>・授業のヒントとなる情報を提供してくれるような外部の専門家を招いた学習会やデモ授業などを通して授業改善の手立ての共有化を進める取組をより一層進めたい。</p>	<p>(保護者)</p> <p>・授業に満足している生徒が沢山いることは大変素晴らしいことと評価している。</p> <p>(保護者)(学校評議員)</p> <p>・授業をしっかりと受けて、部活動にもしっかりと取り組むという姿勢を持つ生徒を育成していると感じる。その姿勢を全教員が持つような取組を学校全体で行って欲しい。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・外部の専門家を講師として招き、授業研修の機会を設け教員の指導技術の向上を目指して欲しい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・「組織的な授業改善」については、例年行っている授業公開、研究授業等に加え、外部講師の方を招き、「生徒から始める授業改善」を大きなテーマとして、研修会等を実施することができた。「生徒による授業評価」の結果とともに、次年度の授業に反映されることが期待される。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・近隣の小中学校に授業見学をさせていただくことにより、「グループワーク」の方法等の検討材料としていきたい。</p> <p>・学習面での満足度を図るために、卒業生の意見を参考にすることができないかということを探っていく。</p>
<p>IVキャリア教育を推進し、希望進路の形成とその進路実現を図る</p>	<p>1 希望進路の形成と進路実現</p> <p>(1) 『荏田アカデミア』の「キャリアアカデミア」を活用した充実した進路支援体制を構築する。</p> <p>(2) 進路適性検査、スタディーサポート・模擬試験や進路説明会、キャンパス訪問、キャリア講演会、出張講義等とおし、生徒一人ひとりが自らの適性や学力到達度を把握し希望進路を形成して進路実現を図るための充実した支援を行う。</p> <p>(3) 教科活動や特別活動等、学校教育活動全般を通じて、インターンシップやボランティア活動、シチズンシップ教育等の体験活動を充実し、キャリア教育を推進する。</p> <p>(4) 奨学金等の案内を適切に行い希望進路の実現を支援する。</p>	<p>・模擬試験等は、生徒の学力に見合ったものを選定し、有効に活用できたか。</p> <p>・生徒(卒業生)の進学希望先のニーズを把握できたか。</p> <p>・希望進路を70%以上達成できたか。</p> <p>・地域貢献活動・ボランティア活動を全員が卒業までに経験できたか。</p> <p>・奨学金の案内が適切にできたか。</p>	<p>・実力テストを各学年2回実施した。1年次11月においては、生徒の学力の伸張及び学習習慣の定着を定点観測できるスタディーサポートに変更した。</p> <p>・進路希望調査や適性検査を実施し、生徒の進路希望を把握した。また、進路についての悩みを抱えている生徒についても、学年と進路支援グループで連携し問題解決を図った。</p> <p>・今年度の3年生は進路に対する意識が高く、早い段階で自己の進路希望を明確に持つ生徒も多かった。希望進路は概ね達成できた。(卒業生にアンケート実施予定)</p> <p>・横浜北地区のインターンシップには今年度も3年生を中心に20名が参加した。</p> <p>・日ごろの部活動や荏田坂清掃等による地域に根ざした貢献活動を実施することができた。</p> <p>・様々な奨学金の案内を適切に行い、生徒の希望進路の実現を支援することができた。</p>	<p>・入学時から2年次秋までは、スタディーサポートによる定点観測が効果的であるが、2年次秋及び実施回数については、生徒の実態を踏まえ、効果的な回数を引き続き検討していく。</p> <p>・多様化する生徒の進路希望を的確に把握できるよう、よりきめ細やかな進路ニーズリサーチを実施する方向で検討していく。</p> <p>・2年次のうちに進路希望を明確に持っている生徒の方が希望進路の実現率が高いというデータもあることから、1・2年次に良質な進路情報を提供し、早い段階から将来の進路意識を高めるよう努力していく。</p> <p>・地域貢献活動・ボランティア活動を単なるイベントに留めず、年間を通して地域との交流として位置づけ、地域にしっかりと根ざした荏田高校の確立に引き続き努力をしていく。</p> <p>・引き続き、様々な奨学金の案内を生徒に適切に行い、生徒の希望進路の実現の支援を行いたい。</p>	<p>(保護者)(学校評議員)</p> <p>・今年度の進学実績を見るに充実した進路支援体制によって成果が現れていることがわかる。更により成果となるよう期待する。</p> <p>(学校評議員)</p> <p>・アンケートを行い、数値指標がある仕組みを作ったことで、進路支援状況がわかりやすくなったことを評価したい。引き続きアンケート結果をきちんと分析し、充実したキャリア支援を行って欲しい。</p> <p>・入学したが卒業しなかった生徒状況の分析をすることで今後の荏田高校運営のヒントになると考える。次回の評議員会でその分析を出して欲しい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>・進路実績については、ある一定程度の成果を収めることができたと思われるが、さらに上級学校への進学率を高めたい。</p> <p>・キャリア教育も視野に入れ、体育コースに限られていた一流アスリートの講演会を全校生徒に対して行うことができた。</p> <p>・生徒、保護者に対する進路指導を中心としたガイダンスは、一定の成果を得ることが出来た。</p> <p>(改善方策等)</p> <p>・体育系大学への進学を希望する生徒のニーズに応えるため、「指定校推薦枠の拡大」や「専門的知識を有する大学講師の派遣」等の方策を検討する。</p> <p>・インターンシップやボランティア活動への参加率が高まるよう、定期的な情報提供に努めていく。</p>

	<p>2 活発な部活動や学校行事で切磋琢磨する心豊かな人間形成</p> <p>(1) 活発な部活動や生徒が主体的に取り組む行事運営により、お互いに高め合う人間関係や責任をもってやり通す力を培う。</p> <p>(2) 体育コースと一般コースが一体となった部活動により、高いレベルの専門的な技術・技能の習得を支援する。</p> <p>(3) 生徒が中心となった行事運営を推進させることで、生徒の責任感やコミュニケーション能力を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部活加入率70%以上を達成するための取組ができたか。</li> <li>・部活動顧問や部活動インストラクターを適切に配置させることができたか。</li> <li>・部活動に係る予算配置を適切にできたか。</li> <li>・関東大会に3部以上の出場を目指し、部活動の活性化を図られたか。</li> <li>・生徒会に係る学校行事を計画的に行うことができたか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月末での加入状況は77.3%となっており、目標は達成できた。</li> <li>・部活動顧問や部活動インストラクターを概ね適切に配置できた。</li> <li>・生徒会費については、本部役員、予算委員会生徒が努力した結果、適切に配分し、執行も概ね適正かつ順調に進んだ。</li> <li>・部活動の成果を踏まえ、遠征補助資金が増大となったため、PTAに新たな会計の設立を要請した。</li> <li>・関東大会へは、陸上競技部、男子バレーボール部、女子ハンドボール部、体操競技部、バドミントン部が出場し、全国大会へは陸上競技部、男子バレーボール部が出場した。</li> <li>・県の部活動安全対策支援事業の指定を受け講習会を実施した。</li> <li>・体育祭、青群祭については、前年度に要項を教職員に提案するなど、始動を早めることで、生徒への指導期間を充分確保し、生徒による自主的、計画的な運営を指導することができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化部加入率が20%程度と少なく、文化部入部率向上に向け、新入生歓迎会やホームページ等によるPR活動や活動条件の整備をより一層進めていきたい。</li> <li>・教員の任用の違いによる部活動顧問配置のバランスを整えていきたい。</li> <li>・部活動インストラクターの希望に添えない部が生じたことを踏まえ、引き続き部活動顧問の配置基準の見直しや部活動インストラクター配置数の検討を続けていきたい。</li> </ul>	<p>(保護者)(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体育祭や青群祭等の学校行事を見せていただき学校が元気で活発な様子がよくわかった。文武両道のスローガンのもと、その指導を継続して欲しい。</li> </ul> <p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動の活躍は大変嬉しいことだが、その活躍の裾野を広げ、もっと多くの生徒が活躍できる仕組みづくりを目指して欲しい。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動等で活躍している生徒への支援する仕組みを是非作っていただき、生徒への支援体制を万全にして欲しい。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度から設定した、「文武両道～支え合い、やり遂げる荏田高生～」というキャッチコピーが、学校全体の雰囲気として定着しつつある。</li> <li>・生徒会活動は、生徒が主体的に活動できるようになってきている。</li> <li>・部活動に真剣に取り組むことで学習面が伸びていくという相乗効果が多く見られるようになった。</li> <li>・部活動と並んで学校行事も非常に盛んであり、これは本校の良き伝統として受け継いでいくものと考ええる。(改善方策等)</li> <li>・施設設備の定期的な点検等をさらに徹底し、部活動による事故防止に取り組む。</li> <li>・関東大会、全国大会等で活躍する部活動がさらに増えるよう、様々な側面から支援をしていく。</li> </ul>
<p>V 地域との協働・連携による開かれた学校づくりを推進する</p>	<p>1 学習環境の美化意識の高揚及び地域マネジメント力の育成</p> <p>(1) 校内での清掃活動の徹底とともに、荏田坂、荏田高校前バス停や校舎・グラウンド周辺等の地域清掃活動を充実させ、生徒一人ひとりの地域貢献やシチズンシップへの意識・意欲を高める。</p> <p>(2) 近隣小中学校・自治会等と連携し、自治会行事や介護施設でのボランティア、部活動生徒による出前技術指導等により、社会貢献の参画意識を育成する。</p> <p>(3) 校内及び地域と協働することにより、防災意識を高め、防災計画を充実させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域清掃活動が組織的に取り組めたか。</li> <li>・地域の他校種・自治会との充実した連携ができたか。</li> <li>・全校一体となった適切な防災計画をたてることができたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での美化活動を徹底させるため、4月当初に生徒の清掃箇所の分担を適切に行い、教員が指導を徹底することにより、学校全体の清掃が行き届き、学校全体の環境美化を図ることができた。</li> <li>・年間を通して、クラスや部活動など学校全体で学校周辺の清掃活動を行った。(年間10回)</li> <li>・ジャグリング同好会や生徒会の生徒が、地域の自治会主催の祭に参加して地域との交流を深めた。(6月1回、8月2回)</li> <li>・荏田南小学校の4年生を招いて、書道部と『書道交流』を実施した。(12月1回)</li> <li>・荏田南小学校で、男子バレーボール部や陸上競技部生徒によるスポーツ教室を行った。(年間12回)</li> <li>・全校一体となった防災訓練及び防災教育等の計画をたて、4月に「生徒の迅速な安全確保」を目的とした「地震の直後に火災が発生したことを想定した避難訓練」、8月に「シェイクアウト訓練」、11月に「津波防災のための緊急地震速報の訓練」、12月に「防災教育」として防災の授業を実施。また、3月11日に「東日本大震災を風化させない取組」として防災教育を実施予定である。これらの取組により、全校の防災意識を高めることができた。</li> <li>・地域の「よこはま夢倶楽部グループホーム夢観」にジャグリング同好会が訪問し、防災訓練の誘導補助を行い地域の一員としての自覚を養い、自ら進んで社会とつながろうとする意欲を育てることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスや部活動など学校全体で学校周辺の清掃活動の取組について引き続き行っていきたい。また、美化委員会の活動を活発にするための指導をすることにより、生徒の自主的な美化活動への意識高揚に取り組みたい。</li> <li>・ボランティア活動のあり方について、学校としての方針を明確にして、計画的に企画・実施・検証をする。また、参加率が高まるように定期的な情報提供に努めたい。</li> <li>・今年度の取組を踏まえ、適切な防災計画を作成し、充実した取組を行うことで全校の防災意識を高めていきたい。</li> <li>・地域と協働した防災訓練の取組を広めていきたい。</li> </ul>	<p>(保護者)(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内美化がさらに進んでとても整備された校内であると感じる。この取組を是非、続けて欲しい。</li> <li>・男子バレーボール部、陸上競技部及び書道部の小学生対象のスポーツや文芸とおとした地域交流が大変好評である。また、吹奏楽部やジャグリング同好会も地域の催しに出演し大変好評であった。今後も充実した交流を継続して欲しい。</li> </ul> <p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との交流事業である「グリーン CLEAN えだ大作戦」は体育コースの生徒さんが中心となって盛り上げてくださった。大変好評な交流事業なので、体育コースの解消後も是非、引き続きやっていただきたい。</li> <li>・防災として、是非、地域と連携した取組を今後構築して欲しい。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動や地域での清掃活動を軸に地域との連携が深まっている。今後も、生徒がスポーツや地域の行事を通じた交流に積極的に取り組むような体制を充実させていきたい。</li> <li>・防災訓練やシェイクアウト訓練等を通して、生徒の防災意識を喚起することができた。</li> <li>・PTA活動がさらに活発になり、「おやじの会」の立ち上げにもつながった。(改善方策等)</li> <li>・本校の生徒の地域での評価が高いことは大変嬉しいことなので、引き続き、地域の一員として活動を検討し、より多くの生徒が関わるような体制作りをしていきたい。</li> <li>・「おやじの会」が軌道に乗るように、積極的に協力していきたい。</li> <li>・学校説明会等の中学校への広報活動の更なる充実を図っていく。</li> </ul>

<p>(4) PTA 活動での教職員からの事業提案や積極的な参加により、保護者と一体となった PTA 活動の充実に努める。</p> <p>(5) 入学者選抜に向け、授業公開、部活動見学、オープンスクール、学校説明会等の改善を図り、中学生・保護者や地域への学校情報の発信力を一層充実させる。</p>	<p>(4) PTA活動において教職員の積極的な参加を募り、保護者と一体となった活動を充実させることができたか。</p> <p>(5)</p> <p>① 充実した学校説明会にむけて、開催会場設定及び、内容等の改善が図られたか。</p> <p>② 中学生・保護者や地域への本校の特色及び求める人物像の周知ができたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA 活動において5月「グリーンサポート」では120名の参加者、11月「グリーンサポート」では50名の参加者、11月「グリーン CLEAN えだ大作戦」では27名の参加者。</li> <li>・青群祭では、「PTA 役員会」と「おやじの会」が「荏田 PTAOB 会(いずみ会)」と協働し、総勢50名で参加することで充実した活動となった。また、その運営の際に荏田南連合自治会からご協力をいただいた。</li> <li>・「キャンパス訪問」と「料理講習会」では進路支援と協働して計画を立て運営し、大成功を収めた。</li> <li>・教職員からの事業提案により実演型交通安全教室(スケアードストレイト式)をPTAと協働して行った。</li> <li>・高P連「横浜北地区大会」において発表を行うため、教職員と生徒に積極的な参加を募り、それをもとに保護者と一体となった企画を練った結果、素晴らしい発表を作り上げることができた。</li> <li>・「おやじの会」を年間で9回計画し校内の保全活動を行った結果、充実した PTA 活動を図ることができた。</li> <li>・学校説明会において、来場者のニーズに応じて部活動や学校行事の説明時間を増やした。本校の求める人間像やコース説明などを丁寧に行った。</li> <li>・リーフレットやホームページで説明会や学校見学等の日程を告知し、校外の会場で実施した学校説明会での来場者が概ね増えた。(全公立展での資料配布数:約7500(平成26年度)→6440(平成27年度)、公私合同説明・相談会での配布資料数:948(平成26年度)→1048(平成27年度)、青葉公会堂での学校説明会への来場者数:516(平成26年度)→750(平成27年度)、本校での学校説明会(10月)への来場者数:656(平成27年度)、本校での学校説明会(12月)への来場者数:876(平成26年度)→640(平成27年度)</li> <li>・中学校訪問の際、新着任者は本校勤務2年目以降の教員と一緒に訪問して、細かい質問に対応できる体制を構築した。訪問校数:43校(平成26年度)→47校(平成27年度)</li> <li>・夏季休業中の学校見学の件数が増えた。本校の求める人間像やコース説明などを丁寧に行った。来校者数:約500名(平成26年度)→223組411名(平成27年度)</li> <li>・学校案内やリーフレット、受検情報冊子等で、本校の特色をわかりやすく説明した。</li> <li>・『学校へ行こう週間』で自由に授業を参観する機会を設けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の取組を踏まえ、PTA 活動での教職員からの事業提案や積極的な参加を募り、保護者と一体となった活動の充実に引き続き図りたい。</li> <li>・学校説明会での改善点として、来場者が混乱のないように全体へのアナウンスを徹底して円滑な運営を心がけたい。</li> <li>・今後も学校説明会等の企画・運営について、グループ内や他グループとの間で、報告・連絡・相談を密にして、円滑な進行と事故防止を心がけたい。</li> </ul>	<p>(学校評議員)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の PTA と教職員の連携のとれた活動はとても素晴らしいと感じた。特に高P連「横浜北地区大会」においての発表では、完成するまでは忙しかったと思うが、このような経験をしたからこそ教職員との良い関係ができたと思う。PTAの力は学校づくりの力となるはずなので今後も PTA との関係づくりに努力して欲しい。</li> <li>・情報発信は学校づくりにおいて大変重要なツールとなるはずである。あらゆる機会をとらえて、情報を発信できる仕組みづくりを是非、今後構築して欲しい。</li> </ul>	
--	---	---	---	---	--

<p>VI信頼に根ざした学校づくりを推進する</p>	<p>1 不祥事・事故防止の徹底  (1) 危機管理の観点から、個人情報・学校情報の管理や安全管理上の点検・改善に学年やグループ等の単位で組織的に取り組み、事故不祥事防止を徹底する。  (2) 県費、PTA 諸会費、部活動費等について、透明で合理的な予算計画・予算執行体制により、不適切経理を防止する。</p>	<p>・学年、分掌グループや教科単位での事故防止の取組や四半期毎のグループの課題集約により、学校運営の改善が図られたか。  ・県費、私費について適切な会計処理が行われたか。</p>	<p>・危機管理の観点から、学校目標を踏まえた年間目標の策定を学年、各グループ及び教科単位で行った。また、個人情報の管理や安全管理上の点検・改善項目を盛り込み、事故・不祥事防止に取り組んだ。  ・県費、私費会計について、透明で合理的な予算計画・執行体制を組織的に構築した。また、私費会計については「私費会計基準」に基づいた監査を的確に行い、学校徴収金運営協議会を経て適切な会計処理を行った。</p>	<p>・各組織の課題を明確にし、学校運営の改善に繋げるため、校内での情報の共有化を図り、一層の改善に取り組みたい。  ・県費、私費会計について、透明で合理的な予算計画・予算執行体制を組織的に構築することで、不適切経理を防止する取組を引き続き行っていきたい。</p>	<p>(保護者)(学校評議員)  ・透明で合理的な会計処理を行っていることを評価したい。</p>	<p>(学校評価)  ・職員間の風通しがよくなり、様々な情報を共有できることができた。  ・業務の振り返りについては、四半期ごとに行うことが難しかった。  ・グループ間で調整ができないままの業務があった。  ・私費については、不適切な執行を防止することに努めた。</p> <p>(改善方策等)  ・校内における情報の共有化や報告・連絡・相談をさらに徹底することにより、不祥事防止に取り組みたい。  ・業務の振り返りは、企画会議等で定期的に行っていききたい。  ・グループ間でどの部署が担当するかを明確にし、仕事の流れが見えるようにしていきたい。</p>
----------------------------	---	--	---	--	--	--